

みどりの風

令和2年11月25日（水） 発行人：校長 角田 亮明

緑
の
誓
い

- さわやかにあいさつをします
- 進んで勉強します
- きまりを守ります
- 心をこめて掃除をします
- みんなと仲良くします

算数科中間発表会を開催しました

11月20日（金）の午後、五島市教育委員会指定研究「算数科中間発表会」を開催しました。3年研究の2年目である本年度の研究テーマは『主体的に学び合う児童の育成～ねらいに即した「書く活動」を重視する算数科の学習を通して～』です。書くことで考えが整理され、相手に伝えやすくなることを感じさせるとともに、自分が分かり直したり、分かってもらって嬉しいと感じたりする経験を積ませることで、主体的に学び合う児童が育ち、結果的に学力が向上するであろうという研究仮説を立て歩みを進めてきました。今回は、代表授業として、2年2組：寺田学級の「新しい計算を考えよう」の授業、6年生少人数指導（2学級を3クラスに分けて：鶴殿・瀬戸口・野茂）による「順序よく整理して調べよう」の授業を公開するとともに、それぞれの授業別協議、及び、それぞれの協議会場をズームで結んでの全体会というスケジュールで研究会を進行しました。五島市内の全小中学校から先生方が集まり、本校研究の実践内容や公開授業についてたくさんのご意見、ご助言をいただきました。また、昨年度まで本校に勤務していた学校教育課：小田美知代指導主事に今後の研究の方向性について丁寧にご指導いただき、改めて、研究意欲を高めているところです。何より嬉しかったことは、参観の先生方に、2年生と6年生の学びの様子をたくさん褒めていただいたこと。研究の先には児童の笑顔がなくてはなりません。これからも、児童の「分かった！！」という声をたくさん引き出せるよう、算数科指導の在り方を研究していきます。



プログラミング教育の実践＝5年1組：高洲学級の算数授業

今春からスタートしている新しい学習指導要領には、小・中・高等学校を通じてプログラミング教育の充実を図ることが謳われています。プログラミングとは、コンピュータに人が命令を与えて動かすことです。将来の予測が難しい社会を生き抜くために、子ども達に情報や情報技術を主体的に活用していく力を身に付けることはとても重要です。そのために、情報を効果的に活用しながら、論理的・創造的に思考し課題を発見・解決していく「プログラミング的思考」の育成を意図的、計画的に進めていく必要があるのです。新しい教育領域のため実践例も少なく、どの学校も手探り状態ですが、小学校においては、導入可能な教科において積極的に取り入れていくことが求められます。

今回、5年1組の算数授業では、プログラミングによる割り算を使った公倍数の求め方を知るという目標を設定し、**プログ**
ルというプログラミングソフトの基本操作を学びながら、コンピュータに3と5の公倍数を言わせることに挑戦しました。

